



多摩川

第3回

子ども環境

シンポジウム

みんなの発表誌



2010年
12月11日(土)に
フォレスト・イン昭和館(昭島市)で
発表された内容を
まとめました。



©2007,2011 ALUPIN・アイフィールド

※多摩川子ども環境シンポジウムは東急百貨店ココエコチャリティー事業からの支援を受けております。

美しい多摩川フォーラム

ご挨拶

多摩川は多摩地域だけでなく東京圏のシンボルです。各種の事業活動を通じて、このシンボルをより美しくより気高いものにするため、2007年に「美しい多摩川フォーラム」は生まれました。多摩川の持つ自然と歴史文化の豊饒さを再発見し、次世代につなげていくために、このフォーラムは市民の人たちも含め、行政、企業、大学がおもな構成団体となって、「美しい多摩川100年プラン」を掲げ、地域経済活性化部会、環境清流部会、教育文化部会で熱心に討議、研究、諸事業活動を続けております。

さて、教育文化部会の事業活動の幹となる一つの事業として、「多摩川子ども環境シンポジウム」があります。2010年度の今回で第3回目となります。個人も含め、年々参加団体が増加していると同時に、内容も多岐にわたり、質的にも向上しているように思います。

開会にあたり、未来からの留学生である子どもたちに、「君たちは私たち大人に、たくさんの夢とアイディアと情報を持ってきててくれる。大人たちのエゴで汚れた地球を、君たちの心の消しゴムで消して、明日になったらエコの地球にもう一度戻してほしい」と話しかけました。その理由は、私たち親の世代の決定が彼らの世代に与える影響の強さを彼らに早く気づかせ、親の世代への警鐘を「澄んだ心ではっきり」と鳴らしてもらいたいからです。また、近い将来、彼らも親の世代になるわけですから、地球にやさしい、あるいは持続可能な社会を目指し、「新たな行動原理や生活スタイル」を、このシンポジウムを通じて準備してほしいからです。



報告書にも一部掲載されているように、今回も小中学生が、多様な生物が息づく「多摩川」をテーマに、子どもながらの新鮮な視点でアプローチし、自信を持って楽しく発表してくれました。理科離れが懸念されている昨今、このようなシンポジウムを通じて、環境は言うに及ばず、「サイエンス」全般への関心も深まってくれたらという願いもあります。

最後になりますが、今回のシンポジウムを計画し、支えてくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

美しい多摩川フォーラム 会長 細野 助博

ほその すけひろ

目次

◆開会挨拶・開会宣言	2
【第1部：発表会】	
①「野川しらべ」～私立和光小学校～	3
②「小菅川とともに」～小菅村立小菅小学校～	5
③「僕の貴重な時間」／「多摩川レガッタ」～多摩川でボートを楽しむ会～	7
④「守ろう！自然環境～多摩川体験で感じたこと～」～たちかわ水辺の楽校～	9
⑤「私たちの水辺の楽校」～浅川潤徳水辺の楽校～	11
⑥「河辺川原の野鳥」～青梅市立河辺小学校～	13
⑦「ヤマメを育てる」～青梅市立友田小学校～	15
⑧「今の多摩川はなぜタマゾン川なの？」～川崎市立東高津小学校～	17
⑨「多摩川上流（平井川）で生き物観察」～イオン日の出店・チアーズクラブ～	19
⑩「多摩川を世界へ発信！！～生物多様性条約第10回締約国会議国際子ども環境会議あいち・なごや2010に出席して～」～おさかなポストの会～	21
◆「多摩川の歌」紹介	23
◆作品賞発表・賞状授与、閉会挨拶	24
【第2部：交流会】	25
◆会場アンケート結果	26

※ 発表文の掲載にあたっては、できる限り発表者の表現を活かして編集しており、全体として必ずしも言葉の統一性は図られていません。

開会宣言



ただいまより、
第3回 多摩川子ども環境シンポジウムを始めます。
多摩川流域の小学生、中学生が発表しますので、
最後までお聞きください。

練馬区 石神井中学校 1年 久保 如竹くん



会場アンケート回答者

性別	男		女		不詳		合計	
人数・構成比	27	56.3%	11	22.9%	10	20.8%	48	100%

年齢別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
人数	2	3	8	16	10	4	4	1	48
構成比	4.2%	6.3%	16.7%	33.3%	20.8%	8.3%	8.3%	2.1%	100%

会員別	会員		非会員		不詳		合計	
人数・構成比	27	56.2%	13	27.1%	8	16.7%	48	100%

これから、僕たちの「野川しらべ」の発表をします。



①初めての野川

まずははじめに、野川とは、多摩川の支流で国分寺の数ヶ所から出た湧水が集まって川になったもので、途中で入間川と仙川と合



ところで、グッピー オスカーラインなど色々な外来魚を見せてもらいました。僕たちも多摩川の色々なところで魚捕りをしましたが、外

来魚は1匹も捕れず、在来魚ばかりが捕れました。

魚捕りをしたことがすごく楽しかったので、今年は多摩川は大き過ぎると思い、その支流の狭くて浅い野川で魚捕りをすることにしました。

6月4日、今回は様子見として行くことになりました。すると、お母さんたちが「せっかくだから野川の上流の深大寺のそばを食べたい」と言いだし、成城学園から深大寺まで野川の川岸を歩いて、途中で川に入り魚捕りをするということになりました。この時は、野川で魚捕りをしたことがなく初めてだったので、去年の外来魚グループ全員で行きました。成城学園から深大寺までけつこう距離がありましたが、僕たちは川を見るなり入りたくなり、成城学園からすぐ川に入ってしまいました。そして、お母さんたちは川岸を、僕たちは川の中を、魚を捕りながら上流に向かって進んで行きました。多摩川に比べ、野川はすごく浅く、深いところでも僕の足のものところ位でした。小さいメダカから大きなコイまでいて、たくさんの種類の魚が捕れました。小さい川だけど多摩川より魚がよく捕れてびっくりしました。

あっという間に、お昼過ぎになり、昼食は、京王線の国領付近で川から出て、電車とバスに乗って深大寺まで行き、美味しいおそばを食べました。

②ライギョ発見

前回の野川でたくさん魚が捕れることが分った僕たちは、これから野川の魚の調査をしてみたりました。そこで、これからは僕たち二人で野川に行くことにしました。

これが僕たちの使った魚捕りの道具です。向って左にあるしきは、お魚キラーといって、なぜかえさにパンを入れるととてもよく捕れます。あとはひたす



ら自分たちの愛用の網でガサガサで捕ります。

7月27日、僕たち二人で野川の喜多見に行って、ライギョを発見しました。

魚を探していて、大きいコイの大群を見つけて捕ろうとしたら、コイより少し大きくてよく見たらライギョでした。捕ろうとしたら、深いところに逃げられてしまいました。



しばらくしたら出てきておとなしくしていたので、捕りやすそうでしたが、網を入れたらはねて捕れませんでした。でも、ライギョの柄だったので、野川にライギョがいるのが分ってとてもおどろきました。しかし、動きが速くて捕獲できなくて残念でした。でも、多摩川だけでなく野川にも大きな外来魚がいておどろき、ワクワクしました。この日に捕れた魚は、モツゴ、ヌマエビ、ウグイでした。

③グッピー捕獲



8月19日、僕たちは前回ライギョを発見したところより少し下流にある喜多見で魚捕りをしました。捕れた魚は前回とだいたい同じですが、魚以外では小さいモクズガニが捕れました。川の底に落ちていた鉄管の中にいま



した。ガニは干潟にしかいないと思ってたのでびっくりしました。ガニは持ち帰り、バーニンと名付けて飼っています。11月の始めに脱皮して一回り大きくなりました。

その後、服も着がえて帰ることになり、川をながめいたら、メダカのようでもあり、しっぽが大きくきれいな色をしている魚を見つけました。よく見たらそれは、グッピーでした。去年山崎さんのところで、多摩川で捕ったグッピーを見せてもらいましたが、僕たちは多摩川では1匹も捕れず、本当にいるのかなと思っていたので、びっくりしました。グッピーは3匹位いましたが、この日は捕獲できずに帰りました。



しかし、せっかくグッピーを発見したのに捕れなかったのは、くやしいので27日にまた同じところに魚捕りに行きました。そうしたら、グッピーはやっぱり同じところにいました。人工で造られた川岸にグッピーがかくれてしまわないように追い込むのがたいへんでした。水をバシャバシャやってグッピー

を網の中に追い込んで捕りました。最初の1匹を捕ったときはすごくうれしかったです。その後もがんばって10匹も捕りました。グッピーは心誠と二人で分けてそれぞれの家で飼っています。心誠の家のグッピーは卵も産み稚魚がたくさん産まれたそうです。僕の家ではほかの熱帯魚と一緒に水そうに入れてしまったので、いつの間にかいなくなり、今では1匹になってしまいました。

多摩川だけではなく、ほかの川にも外来魚がいたということを自分の目で見て捕れたのはうれしかったけれど、残念でもありました。

④二子玉川

9月19日、今回も僕たち二人で行きました。今回は、少し下流に行こうとしたら、川の見回りをしているおじさんに、魚の放流をしてるところなので魚を捕らないでくださいと言われたので、二子玉川に行くことにしました。

宇奈根から二子玉川にかけて、川の工事をしていました。このあたりは大雨が降ると川の水があふれてしまい、近くに住んでいる人が危険なので、川を深く掘り水があふれないようにしているそうです。魚がいるようには見えませんでした。

二子玉川では、大きな魚がたくさんいました。野川と比べると、川はとても広かったです。そこで、しかけ（お魚キラー）をし

⑥野川の源流

11月21日、僕たち二人で野川の源流に行きました。

①野川の源流

東京都国分寺市にある日立中央研究所内にあり、ふだんは源流を見られないのですが、4月と、11月に年2回一般公開されています。

庭園内はとても広く東京ドーム5個分の大きさがあります。ここにはケヤキ、サワラビなど約120種類の樹木が2万7千本植えられています。

②ハケ

国分寺崖線（がいせん）の湧水のことです。

国分寺崖線は、世田谷の等々力いこくまで続く全長約28キロの崖線です。湧水は、武蔵野台地に降った雨がたまり、地下水となって国分寺崖線に沿ってふんしゅつしたものです。

③野川の水源

ボタボタと水が落ちていると思っていたが、意外にたくさん流れています、多摩川の水源とはちがうなあと感じました。水は意外とぬるく、なめたら甘かったです。

④クレソン

クレソンは、水のきれいなところだけにしか生えないので、水がきれいだと分りました。

⑤野川の始まり

大池にある水門、ここから野川が始まります。水門を通った水は少しきれいになっていました。そこにいたコイは、とても見やすかったです。水門は滝じょにゴミをとった水を流していました。

⑥大池の大きさ

大池は、構内数か所の湧水を利用して、昭和33年に造られ、大きさは約1万平方メートルで、深さは1.5メートル位あります。この日は、白鳥とムクドリとカモが池にいました。他にも野鳥は約40種類位いるそうです。

⑦姿見の池

もう一つの源流。池にはトンボやメダカに紛れてヒメダカもいました。そこから流れている小川では、ザリガニやエビや中位の魚もたびたび発見できました。

帰りました。大きさは約20センチ位です。名前もつけて玄武という名前にしました。野川の中流とはちがっておもしろかったです。



⑤秋の野川

10月1日、今回は京王線の柴崎の近くで魚捕りをしました。しかし、前日の大雨で水がにごり、メダカ10匹位しか捕れませんでした。雨だったというだけで、こんなに魚が捕れないんだとわかりました。すごく残念でした。



●今年1年野川に行って



今年、野川を調べてすごくおもしろかったです。外来魚を見つけて捕って、多摩川だけじゃなく、野川にも外来魚がいると知りました。在来魚も色々な種類がたくさん捕れて、おもしろかったです。魚捕りだけじゃなく、源流も見に行けたのもよかったです。



前回とはちがい、早めに動いたのでたくさん川に行くことができました。

今年1年の間に捕れた魚は、コイ・ウグイ・モツゴ・タモロコ・ヌマチチブが捕れました。カメも捕れました。外来魚は、グッピーが捕れました。捕った魚は持ち帰って育てました。夏に捕った魚は3センチ位大きくなりました。グッピーは、稚魚も産んで、たくさん増えています。野川は生き物がたくさんいて楽しかったです。

小菅川とともに

(パソコン)

～小菅村立小菅小学校～

多摩川子ども環境シンポジウム
発表資料
～小菅川とともに～



小菅村立小菅小学校 6年生



小菅村 小菅小学校

いしはら つばさ うえやま ゆうか おくあき なな
6年 石原 翼くん・6年 上山 優花さん・6年 奥秋 菜々さん
6年 木下 彩さん・6年 権正樹里さん・6年 平澤盛次くん
6年 舟木 優帆さん

これから小菅小学校の
発表を始めます。



● 小菅小学校の紹介

はじめに、小菅小学校について紹介します。小菅小学校は、全校児童30人の小さな学校ですが、1年生から6年生まで仲がよく、元気いっぱいの学校です。

小菅小学校の紹介

- 全校児童30人
- 学年関係なく、仲良くみんなで遊んでいます。
- 小菅川で遊んだり、源流体験や大菩薩峠へ遠足のできるとても自然の豊かな学校です。
- 本日は…
小菅川とともに活動する取り組みを紹介します

休み時間にはみんな遊んでいます。また、全校がくれんぼや長なわ大会など、児童会本部を中心にみんなで楽しめる行事を考え、全校で楽しく学校生活を過ごしています。

多摩川の源流にあたる小菅村。山梨県の北東部に位置しており、東京都奥多摩町と隣接しています。人口は約830人。小菅村の面積のうち、森林が95%を占めるなど、大変自然に恵まれています。山々に蓄えられた雨水は、やがて小菅川に流れています。小菅川の恩恵を受けながら、私たち小菅小学校の子どもたちは様々な活動をしています。

今日は各学年の小菅川とともに活動する取り組みについて発表をしていきたいと思います。

小菅村について

- 多摩源流の村…小菅村（奥多摩町と接する）
- 人口約830人
- 村の土地の95%が森林
- 森林に蓄えられた水が小菅川に流れ込み、やがて多摩川へ



第1回目の遊びでは「水中列車」と名づけて、どんどん川の中を突き進んでいく遊びを思いつきました。また、川原にあるおもしろい形の石を見つけたり、大きな葉っぱで川の水をくってみたりもしました。第2回目の遊びでは、もっと楽しく遊ぶにはどうしたら良いかをみんなで考えた結果、ペットボトルと虫取り網をもっていくことにしました。遊びに夢中になるあまり、サンダルを流してしまうハプニングもありましたが、前回よりもたくさん遊びが思いつき、時間いっぱい、活動しました。

小菅川での遊びは、保育所のころも行いました。夏の暑い日、川に入るのはとても気持ちがいいので、大好きな遊びのひとつです。

2年生…たんけん はっけん 大ぼうけん (東部の川で)

今年の生活科「たんけん はっけん 大ぼうけん」では、一人一人の子どもたちが自分に関わりの深い場所や施設・関わりの深い人々を紹介し合い、4回に分けてみんなで探検しました。その中の一コマを紹介します。

2年生



キャッチアンドリリースはどうやってやるんですか？



ウグイの赤ちゃんをそっとハンカチの上に流すんだよ



ここは、カワセミが卵を育てた穴だよ

お魚名人に、川の生き物のことをたくさん教えていただきました

1年生…とびだせ 遊びたい

1年生は生活科の授業で小菅川に出かけました。いつも身近に感じている小菅川ですが、みんなで一緒に出かけ、遊んでみると、発見がたくさんあります。

1回目の遊びです

1年生

2回目の遊びです



冷たいけど
気持ちいい！



あみをつかって…
なにつかまえられるかな



ペットボトルに
川の水をいれました。
エコログサ
いりです。



水ぶろです。こんな
遊びはどうですか？

東部地区に住む児童が、家の側を流れる小菅川には大勢の人が釣りをするスポットがあり、オタマジャクシもたくさんいるのだと教えてくれました。みんなで川の中を観察したり、オタマジャクシをくつったりするための用具を持参し、村営バスに乗って出発。みんなでキャッチアンドリリースをしている人にインタビューをしていると、近所に住む魚名人のおじさんが近寄ってきました。

「モリアオガエルのオタマジャクシがいるところを教えてあげるよ。」

「ウグイの赤ちゃんのすくい方を教えてあげよう。」
「あそこの穴にはカワセミの赤ちゃんがいたんだよ。」
と2年生が今まで見聞きしたことがなかったことを、時間をかけて教えてくれたのでした。2年生の感動はどれだけ大きかったことでしょう。

小菅川という素晴らしい自然の中で、そこに長年住む方とのふれあいを通して、子どもたちの小菅村に対する愛着がますます深まっていくのを感じました。

3・4年生…源流探検

3・4年生は毎年、7月上旬に、すげのこ（総合の時間）の時間の学習で源流体験を行います。白糸の滝付近からスタートします。



ぶなの森
森のおかげで、源流が守
られているのです。

7月だというのに川の水は冷たくひんやりしています。約2時間かけて、小菅川の上流を目指します。その途中、へびやかえるに出くわしたり、しかのふんを見つけた



ふんばる足もがたがた
水の恐ろしさを肌で感じました。

りと驚きの連続です。
ぶなの森に鳴り響く鳥の声や川の音もこの体験でしか聞けない音。

川の中を歩いたり、綱を使って滝を渡つたりと、決して簡単な道ではありません。しか

一步間違えると濁流へ…
連日雨のため、水量が増していました。



し、探検の最後にはこの探検の醍醐味が待っています。

「瞳淵」という所で川の中に飛び込むことができます。でも、その水温は5度。自然の偉大さを肌で感じることのできる探検でした。



水温5度
源流体験での醍醐味
瞳淵での飛び込みです。

5・6年生…大菩薩峠登山

5・6年生は校外学習で2年に1度、大菩薩峠へ登山に行きます。小菅村と反対の甲州市の塩山側から登り、峠を経て、小菅側に降ります。



このあたりの木は、ミズナラ。
小菅村にはこの木の仲間が生えており、コナラと呼ばれています。

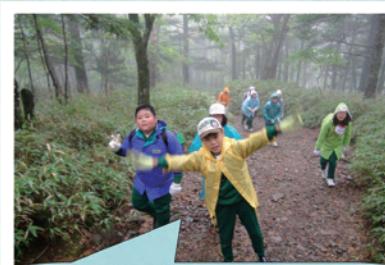
大菩薩峠へ至る登山道は、豊かな自然に恵まれ、多くの植物が育っています。また、動物もたくさん生息しています。私たちは、講師の先生の話を聞きながら、樹木・植物の名前を覚え

たり、鳥のさえずりに耳を傾けたりしながら、自然の豊かさについて学習をしてきました。

当日はあいにくの天気でしたが、晴れた日に、峠から自分



このきのこは
ハナイグチです。
この日の夕食に
みそしるがでました。



豊かな自然に恵まれた大菩薩峠。豊かな自然を見渡していると、長い登山も時間があつとうあります。

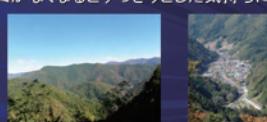
たちの住んでいる小菅村をみてみると、周りを山々に囲まれ、村の中心を川が流れている様子など、改めて小菅の自然の豊かさに気がつきました。

川をきれいにするための取り組み

毎年、小菅村では11月3日に源流クリーン作戦を行っています。小河内ダムの水源である小菅の森や川を清掃します。山には、電化製品などの大きなゴミや空き缶・ペットボトルなどが落ちていました。ゴミが落ちていることは非常に残念ですが、みんなで活動をする中で、きれいになっていくと、とてもいい気持ちになりました。

源流クリーン作戦

- 毎年11月3日（文化の日）に、小菅村の村民が参加し、村内のゴミ拾いを行います。
- 空き缶や、コンビニの袋など、様々なゴミが落ちているので、残念です。
- ゴミがなくなるとすっきりとした気持ちになる。



これからも、ずっと小菅村の自然を守っていきたいです。

みなさんも是非一度小菅村へ遊びに来てください。



～おわりに～



ぜひ小菅村へ遊びに来て下さい

僕の貴重な時間

(パソコン) ~多摩川でボートを楽しむ会~

練馬区 石神井中学校 1年 久保 如竹くん

僕が住んでいる練馬区の川というと、家のすぐ近くを流れる石神井川や、白子川、田柄川などといったコンクリートで護岸されていて、橋などからぞかないと流れがみえないような川しかありません。そのため、川幅が広く、見渡す限り流域に自然が広がる多



摩川でボートを漕げることはとても貴重な体験だと思います。

僕自身は小学5年生のとき水元公園の小合溜という池でボートを始めました。そこで指導してくださった岸田コーチに誘つていただいたことをきっかけに、今年の4月から、多摩川に来るようになりました。



最初は都会の大きな川だから汚いだろうなと思っていたが、実際に行って漕いでみると、水が透き通って川底が見え、そこに魚

がいるのも確認できました。都會にあっても多摩川はこんなに自然が豊かなんだと実感しました。



この自然に恵まれた河川敷には、サッカー、野球、テニスなどのグランドがあつたり、土手でジョギングをしている人もいます。この人たちも僕と同じように良い環境の中、スポーツに熱中している時間は貴重だと感じていると思います。この時間は、多摩川がもたらしてくれているものだとボートを漕いでいて気付いているのに、僕は自然を守ろうとあまり意識したことありませんでした。

「多摩川でボートを楽しむ会」の方はみんな楽しくボートができるように自然を守る取り組みをしています。



今まで僕は見ていただけで実際に自然を守る取り組みをしていませんでした。「多摩川の自然」をテーマに文を書いたことをきっかけとして、自然を守るということにもっと自分から取り組んでいかなければならぬと感じました。

多摩川レガッタ

(作文) ~多摩川でボートを楽しむ会~

世田谷区 船橋小学校 6年 小林 般くん

代読: 世田谷区 船橋小学校 5年 小林 紗弓さん



ぼくがボートと巡り会ったのは、小学3年生の時でした。兄が母に勧められて始めたのをきっかけに、ぼくもボートを漕いでみることにしました。

鶴見川や戸田ボートコースでも漕いだことがあります、多摩川は自然が多くて気持ちよく漕ぐことができます。それは川の両側がコンクリートで固められておらず、土や草が残されているからだと思います。河川敷にはたくさんのグランドがあり、待ち時間にジュニアチームの仲間とサッカーをすることもあります。ガス橋の下からボートに乗るのですが、潮の満ち引きを感じることができます。



じることもできます。川で魚がはねることもあり、ボートを漕ぐのにつかれた時に見ると元気がでます。

多摩川ボートクラブでは、年に一度『多摩川レガッタ』という試合を行います。今年は家族に用事ができ、エントリーをキャンセルしなければならなくなりました。



で参加することになりました。ファミリー対抗に出場し、ぼくはストロークを務めることになりました。



第1レースではスタートで舵がはずれ、大きく左にそれてしましました。コックスの指示で持ち直し、どうにかゴールすることができました。

第2レースではスタートもうまく切れ、順調に進み1位になることができました。



表彰式で名前を呼ばれた時は、みんなの前に出るはすかしさとうれしさが混ざりっていました。時計やクリスタルの置物など、豪華な「日高賞」もいただきました。



多摩川は自然にあふれているので、ボートを漕ぐのも楽しいです。『多摩川レガッタ』などのイベントも開かれています、家族でボートに親しむことができます。ぼくは多摩川でボートを漕ぐことができて、うれしいです。

守ろう！自然環境 ～多摩川体験で感じたこと～

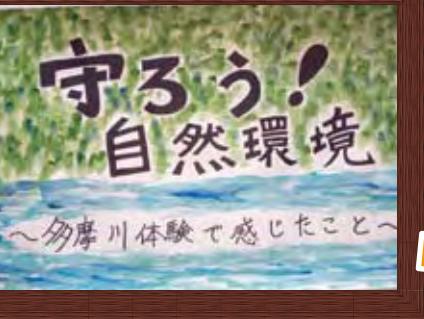
(紙芝居) ~たちかわ水辺の楽校~

立川市 第十小学校 5年 小林 晴日さん

今回は、多摩川の源流から下流を比較し、私が思ったことを発表します。



2010年たちかわ水辺の楽校の多摩川体験は、8月「源流体験」、9月「ガサガサ魚捕り」、10月「多摩川の河口（大師河原）を体験しよう」でした。



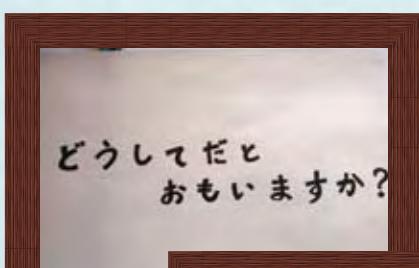
私は今まで源流から中流について学んできたことが多かったのですが、今年は多摩川の河口、干潟に初めて行き、水干の一滴からはじまる多摩川の状態が、下流、海の近くになるとこんなにも変わったのだ改めて感じました。



源流は森林に囲まれていて、夏でも水温は16°C位で冷たかったです。それに比べて多摩川の下流域の水温は25°C位と温かく感じました。



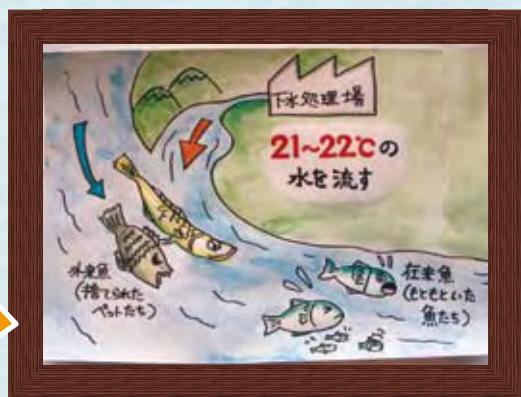
多摩川の源流から河口まで138kmを流れていく間に、どうしてこんなにも温度が変わっていったのだろう?と疑問に思いました。



どうしてだと思いますか?
原因は私たちが使っている生活排水なのです。



現在、生活排水などは下水処理できれいにしてから川に流されていますが、お湯は温度を下げてから川に流しているわけではないからです。下水処理場から川に流す水の温度は21~22°Cのこと。



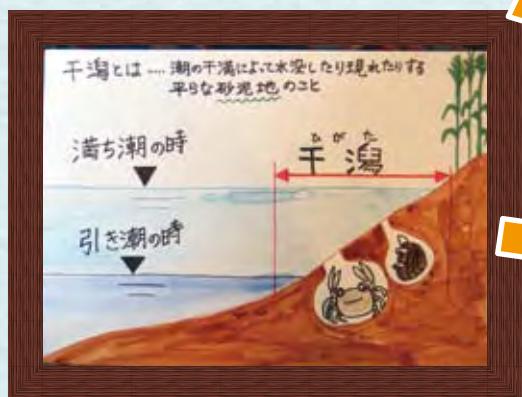
それによって、上流から下流にいたるまで、徐々に温度は上昇していき、飼えなくなったからと川に捨てられた熱帯魚が生きていくような環境ができてしまっているのです。



するには、お風呂のお湯を冷ましてから流す。熱いシャワーを流しっぱなしで使わないなど。

小さなことから一人一人の生活意識の改善が必要だと思います。

多摩川と東京湾の境目にある干潟では、海水と淡水が混じりあう汽水域の環境に生息する様々な生き物を調べました。



外来魚が増えてしまったら生態系がくずれてしまいます。ペットとして飼っていた熱帯魚などを川に捨てない。どうしても飼えなくなったら川崎市にあるおさかなポストへ、という選択があります。

また、川の温度が高くなれば、川の水の行き着く先はどこでしょう？ そう、海です！

二酸化炭素(CO₂)も空気中に増え、気温が上がってきてているというのに、海水の温度も上昇してしまうのです。地球温暖化を防止



干潟にはこんなにたくさんの生き物がいるんですよ！ 川幅は源流から下流へと広くなっていて、川辺のゴミの量が多くなっているな

と感じました。上流から徐々に流れてきたゴミや海からのゴミが、河口にはたまってしまうということを知りました。

でも…
川の水はきれい…

今までに見つかった生き物

- ・アザリ
- ・アチャコ
- ・クリのウツラシカゲイ
- ・ゴカイ
- ・コブシガニ
- ・サビシラトリガイ
- ・シオフキガイ
- ・ソトオリカゲイ
- ・ハサミショコエビ
- ・ホトギスガイ
- ・ヤマトシジミ
- ・トビハゼ
- ・ヒモハゼ
- ・コムラサギニ
- ・チゴヤニ
- ・イマズオサガニ
- ・アシハラガニ
- ・ウモレベンケイガニ
- ・クロベニケイガニ
- ・アリカフジシボ
- ・カフライソガニ
- ・コウロエングビハリガイ
- ・シロスジフジシボ
- ・タテジマフジシボ
- ・ビロフジシボ
- ・ヨーロッパフジシボ
- ・エゾキ
- ・カブノ
- ・ラボウエビ
- ・ユビナガホンヤドカリ
- ・ユビナガスジエビ
- ・マハゼ

みなさんは、貝が水を浄化する働きを持っていることを知っていますか？

干潟にはヤマトシジミが多く生息していました。

ヤマトシジミは食卓でおみそ汁などにして食べられる二枚貝です。実際に大師河原のセンターで汚れた水にヤマトシジミを入れて実験しました。

約1時間後には、汚れた水はどんどんろ過されていき、透明なきれいな水になりました。

川に生息する生物にも役割があって、川の水質を保っていればヤマトシジミが生息できる環境で、水もきれいに浄化されることがわかりました。



私たちも、一人一人が自然環境を守ろう！

川をきれいに浄化しようという意識を持ってこれからの環境を考えていくことが大切だと思います。

私たちの水辺の楽校

(パソコン)

～浅川潤徳水辺の楽校～

これから、浅川潤徳水辺の楽校の発表を始めます。



水辺の楽校は、浅川を昔のように自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで、子どもたちが思い切り遊ぶことができる自然体験の場のことです。水辺の楽校は、一年間を通して様々な活動を行います。

水辺の楽校

浅川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちがおもいっきり遊ぶことができる
自然体験の場のこと



ビンは大きかったです。タイヤも落ちていました。タイヤを運ぶときは重くて大変でした。ごみがいっぱい落ちていてとても汚かったです。ごみを出さないようにしたいです。



ふえのふき方がむずかしかったです。石に絵を書く時は、かっこいい石をえらびました。じょうずに書いてうれしかったです。また、水辺の楽校でいろいろなことをやりたいです。

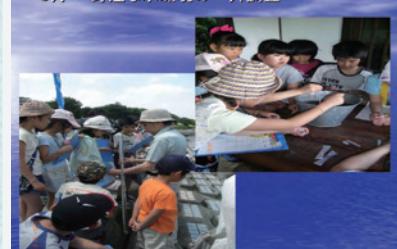


6月は、身近な水環境の一斉調査でした。

最初に浅川の水を調べました。浅川の水にクリンメジャーを入れて水がどのくらいどうめいかを見ました。私が思っていたよりも、水が

日野市 潤徳小学校 6年 沖村 萌和 さん・6年 古木 菜美 さん
5年 足立 晴菜 さん
4年 小野寺 香乃 さん・4年 中野 俊輔 くん
2年 中野 泰成 くん・2年 前川 由奈 さん

• 6月 身近な水環境の一斉調査



とうめいだったので、おどろきました。次に、一人一つで「COD」という薬をもらい、水質の調査をしました。「COD」とは、水の中に含まれている汚れを大まかに数値化したもので、数値が低いほど、きれいな水ということになります。数値が高いと、水の中にいる生き物がすみづらくなります。そして、水辺で遊ぶ人も少なくなってしまいます。数値が高くなる原因の一つ目は、生活排水です。二つ目は、自然浄化作用が下がっていること。三つ目は、水中の酸素の量が少なくなっているということです。



浅川のほかにも、とんぼ池や水車小屋の水も調査しました。水質調査の結果、浅川ふれあい橋付近2mg、向島用水取り入れ口1mg、とんぼ池2mg、水車小屋2mgでした。これか

らも、この数値を維持していけたらいいなと思いました。

身近なところに、こんなにきれいな川が流れていることを知ることができたので、参加してよかったですなと思いました。

また、5年生は近くの田んぼを借り、水辺の楽校の皆さんのご指導で米作りを行っています。これは、田植えの様子です。



8月には、浅川の河口を見学しました。バスの中から川から海に変わっていく様子を見ることができました。

水辺の楽校で8月6日にバスで河口を見に行きました。

着くと海のしょっぱいにおいがして、広い砂浜が広がっていました。海の水はひいていて、雨がふったあの公園に様子が似ていました。よく見ると生き物がたくさんいました。

最初にしじみをとりました。たくさんとれました。なぜ、と



れたかというと、「こきゅうの穴がある所がターゲットだ」と、テレビで知ったからです。でも、とったしじみが砂の中に、逃げてしまったので、残念でした。その逃げるスピードはとても速かったです。

次にカニをとりました。お友だち5、6人で数えきれないほどバケツに捕まえました。その時、バケツの中のカニがかたぐるまをして逃げそうになりましたが、逃げなかつたのでよかったです。

帰る時に河口を見たら、潮が満ちていました。なぜ、分かつたかというと、着いた時に下に落ちていた、タイヤが海の水につかっていたからです。

水辺の楽校に参加していなければ体験できないことを体験できてよかったです。これからも水辺の楽校に参加して、生き物のいる川を大切にしていきたいと思います。



[楽しかった水遊び]

ぼくは、8月14日に浅川で遊ぼうの水遊びに参加しました。

ぼくが一番楽しかったことは、脚立から飛びおりたことです。高い所から飛びおりるきんちょう感がおもしろくて、何度も何回も飛びおりました。

他にも、浅川にブカブカ浮いて、遊びました。浅川は、流れが速いので、遠くまで流れていきました。はく力があって楽しかったです。

これからも、みんなが楽しく遊べるきれいな浅川であってほしいです。また参加したいです。



10月、11月は稻刈りと脱穀をしました。

お米の体験学習で私が学んだのは、お米は大切ななものだ、ということでした。今まで、「おいしい」と何気なく食べていたお米。私は、体験学習で草取りが心に残りましたが、その草取りだけでもたくさんの手間と時間がかかりました。こういった体験学習から分かったことは、一年を通して時間と手間をかけて大切に育てられてきたからこそ、おいしいお米が食べられる、ということでした。時間と手間の結しよう、お米。これからは、お米



が食べられる喜びをかみしめながら、味わって食べていきたいと思っています。

11月は、日野市の地域清掃でした。



1月は、浅川で遊ぼう6のどんど焼きの予定です。どんど焼きの組み方も様々です。

これは、一昨年のどんど焼きです。かまくらづくりというそうです。火をつける前には、中に入れます。こちらは昨年のどんど焼きです。これは、びじんづくりというそうです。



6年生は、水辺の楽校の笹木さんから、とんぼ池について、お話をうかがいました。笹木さんのお話の中で、鯉のお話がありました。私は、今まで鯉がたくさんいるのは良い

ことだと思っていましたが、人間がエサをあげることにより、鯉が増えすぎ、とんぼ池の本来の生態系がくずれてしまうことが分かりました。

私たちのクラスでは、このお話を、名古屋で開かれた、COP10（ COP10 ）のことや生物多様性のことを総合的な学習の時間に調べることにしました。



一月のどんど焼きにも参加したいと思います。



河辺川原の野鳥

(画用紙・パソコン) ~青梅市立河辺小学校~

青梅市 河辺小学校 4年 清水 巧くん 4年 長谷川 俊輔くん

僕たちはいつも「青梅・多摩川水辺のフォーラム」の観察会に参加しています。

多摩川でよく見られるのはハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイです。この3種はとてもよく似ています。今から見分け方を説明します。

これがハクセキレイです。



ハクセキレイは顔が白く、目を通る黒い線があります。これは冬なので背中が灰色です。夏は黒くなります。

飛んでいる時の声は、「チチン」とすんでいます。
(発表では、会場に録音した声が流れました。)

僕が河辺川原で一番よく見るのはハクセキレイです。川で虫を捕まえているのをよく見ます。

次はセグロセキレイです。



観察会では講師の上田先生や、河辺小学校の先生たちといっしょに魚や昆虫、草花、川原の石など多摩川で見るものは何でも観察します。

今日はその観察会でよく見かける多摩川の野鳥について発表します。

セグロセキレイは、顔が黒くて白いまゆ毛のような模様があります。

声は「ジジッ」とにごってます。
(発表では、会場に録音した声が流れました。)

僕は春、「チュビチュビヒリヨルリ」と聞いたことのないきれいな声を聞いてびっくりしました。家に帰って調べたらなんとセグロセキレイだったのです。またまたびっくりしました。さえずりと言ってメスを呼ぶオスの鳴き声だそうです。

最後にキセキレイです。



キセキレイはお腹が黄色くて、目とほおに白い模様があります。背中は灰色です。

声は「チチッ」と鋭く高い声です。
(発表では、会場に録音した声が流れました。)

僕は河辺川原でキセキレイを見る時は、落ち葉や岩の陰をさがします。

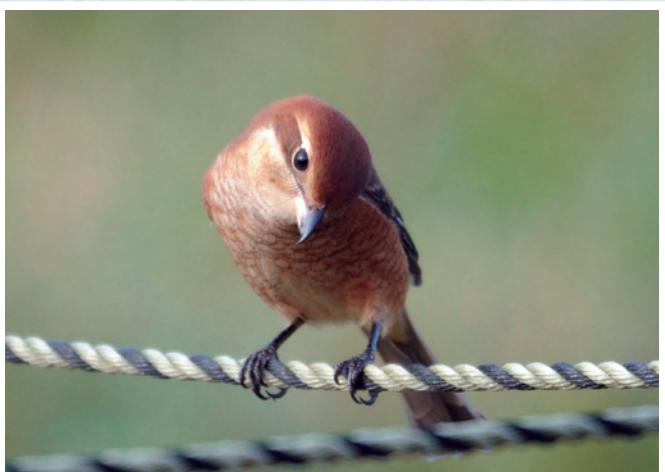
人の前に来ることはあまりないようです。

では、これから野鳥クイズを行います。

野鳥クイズ

これから鳥のくちばしの絵をお見せしますので、鳥の名前を当ててください。

■このくちばしの鳥はなんでしょうか？



正解は「モズ」です。

モズのくちばしはタカに似ていますが、上のくちばしの先が「かん切り」のような形になっていて、肉をくいちぎりやすいようになっています。

モズはくちばしの先から尾の先まで約20cm位の鳥で、木やあし原のてっぺんなど見つけやすいところで尾をくるくる回しています。

モズの顔には目を通る黒い線があります。

鳴き声は秋の初めに「キーキーキーチキチキチキ」など、なわばりをせん言する高鳴きがよく聞かれます。

モズは多摩川の川原によくいる「カワラバッタ」や「カジカガエル」などを木の枝につきさします。これをモズの「はやにえ」と言います。

それでは次のクイズです。

■このくちばしの鳥はなんでしょうか？



正解は「トビ」です。

トビはくちばしから尾の先までだいたい60~70cm位の鳥で、多摩川の空を「ピーヒヨロロロロー」と鳴きながら、はばたかないでせんかいしています。

下から見たときに両方の羽の先に白い模様があって尾がバチの形だったらトビです。

前に多摩川で死んだコイを食べているトビを見たことがあります。いつもはカラスに追いかけられていじめられていきましたが、この時はカラスを追いはらっていました。

僕たちが通う河辺小学校は愛鳥モデル校です。

友だちも、鳥が大好きです。

河辺小学校以外のもっとたくさんの人たちにも多摩川にどんな鳥がいて、何を食べて、どんなところにすんでいるのか知ってもらいたいです。そして鳥たちがいつまでも多摩川にすめるようにみんなで考えていくことが大切だと思います。

これで僕たちの発表は終わります。
ありがとうございました。

ヤマメを育てる

(パソコン) ~青梅市立友田小学校~

青梅市 友田小学校 6年 苗村 龍弥くん 6年 南 サーマンくん



これから
「ヤマメを育てる」の
発表をします。

①ヤマメの卵をもらう

■これがヤマメの卵です。



ヤマメの卵

- ・友田小では、毎年11月に1年生と2年生と3年生以上の希望者がヤマメの卵をもらいます。
- ・一人一人ビンに水を入れてもらい、3個の卵をもらいます。
- ・もらった卵は、冷蔵庫の中に入れて育てます。時々水を換えます。
- ・2週間から3週間で卵がふ化します。
- ・ふ化したヤマメの稚魚（ちぎよ）は、おなかに卵のう（栄養）をつけているのでえさはいりません。



卵をもらう

卵をもらう様子です。おじさんがピンセットで一つ
ぶつぶつ丁寧にびんに入れてくれます。

②ヤマメの多摩川への放流

3月になったら、友田小の近くの多摩川にヤマメを放流します。

ピンで育てたヤマメだけでなく、奥多摩の養魚場で育てたヤマメもいただき、放流します。



大きくなってね、ヤマメさん！

大きくなって、元気に育っての願いをこめて放流します。

③青梅市みどりと水の ふれあい事業推進協議会

友田小のヤマメを育てる活動は、青梅市みどりと水のふれあい事業推進協議会の全面的な協力のもとに行われています。

これからもヤマメを育てます

豊かな多摩川の自然



ヤマメを育てる

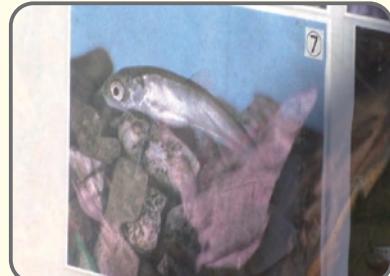
■多摩ケーブルテレビで放送された様子をごらんください。



11月 ヤマメの卵をもらい、卵のふ化に挑戦します。1、2年生100人が、一人3つずつビンに入れて持ち帰りました。



子どもたちに自宅の冷蔵庫でヤマメの卵をふ化させ、その稚魚を放流することで、命の尊さを学んでもらいたい…



「ビンの中でメダカ位の大きさになるまで、がんばって、育ててください」 「は~い！」



3月 校舎のすぐ下を流れている多摩川に、ヤマメの稚魚を放流しました。



子どもたちが自宅でふ化させた稚魚と 奥多摩さかな養殖センターの稚魚と合わせて、およそ500匹を



「元気に育ってね！」

「じゃあね～ヤマメさん！！また会いに来てね！」 1匹1匹丁寧に放流しました。

今の多摩川はなぜタマゾン川なの？

①研究のきっかけ

今年、東高津小学校のふれ合いフェスティバルで調べることになったからです。



(もぞう紙) ~川崎市立東高津小学校~

川崎市 東高津小学校 4年 日野 寿宣くん

2年 日野 旭人くん

②調べて見て

多摩川は、現在いろいろな種類の生き物がすんでいます。しかし、なぜかここ数年、多摩川を「タマゾン川」と呼ぶ人がいます。その理由は近年観賞用の外来生物などを飼う人がふえてきて、多摩川に外来魚を捨ててくる人がいるからです。

成長が、早い魚は、大きくなって水そうに入らなくなったり、大量にふえすぎていらなくなってしまいます。色々な理由で仕方なく多摩川に捨てる人が、ふえてきたということです。でも、なぜ多摩川に、外来魚がすめるのかが、僕の疑問でした。

多摩川は、全長138kmもあるとても長い川です。

多摩川の水は、100%中70%が、下水処理水です。残りの30%は、源流地の笠取山からわきでてくる水です。笠取山の高さは、1953mあります。水道のじゃぐちからでてくる水は、源流地の水です。

ここでクイズです。

1問目 多摩川にいるアユは、どこの物でしょうか。

笠取山の高さは、1953mあります。
水道のじゃぐちからでてくる水が源流地からのものだと思います。
ここでクイズです。アユ
多摩川にいるアユは、どこの中のものでしょうか?
(今から100年ぐらい前に多摩川に放流したそうです。)
アヒワ湖

正解は、びわ湖です。

(今から100年ぐらい前に多摩川に放流したそうです。)

2問目 この中に外国の亀はどれでしょう。

- 1.クサガメ
- 2.イシガメ
- 3.ミシシッピーアカミミガメ

① ② ③

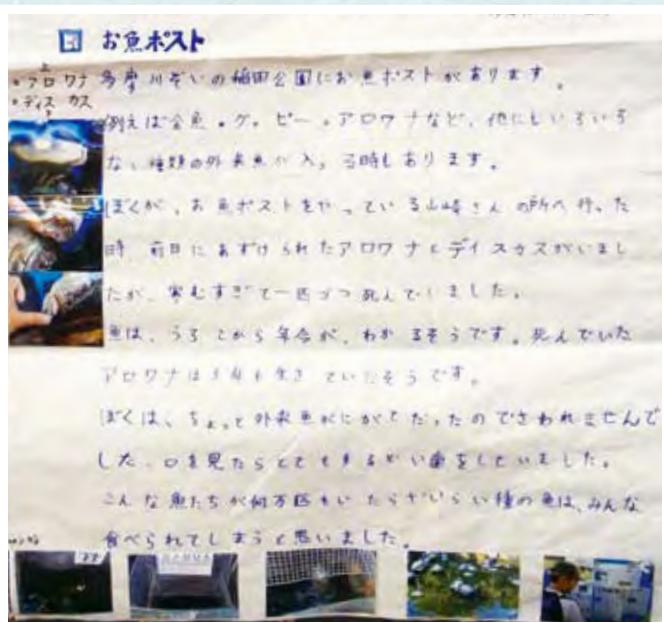
この中に外国の亀はどれでしょうか?

ニヶ領せせらぎ食のめぐみです。

正解は、ミシシッピーアカミミガメです。

③おさかなポスト

多摩川ぞいの稲田公園におさかなポストがあります。例えば金魚、グッピー、アロワナなど、他にもいろいろな種類の外来魚が入っています。僕が山崎さんのおさかなポストに行った時、前日に預けられたアロワナとディスカスが死んでいました。魚は、うろこで年齢がわかるそうです。死んでいたアロワナは3年間生きていたそうです。



僕はちょっと外来魚が苦手なのでさわれませんでしたが、口を見たらとてもするどい歯をしていました。こんな魚たちが何万匹もいたら在来種の魚はみんな食べられてしまうと思いました。



④まとめ

僕は、このことについて調べて外来魚はもともとはいなかつたということと、外来魚を捨てる人がいなくなれば、多摩川は少しずつ変わっていくと思います。

僕たちがやらなくてはいけない大事なことは、お湯を一晩冷やしてから、翌日にお風呂の水を流すこと、シャワーをなるべく使わないようにすることと、トイレで流す水の量を調整して使うことです。

来年はもっと多摩川について知りたいと思ってるので、水辺の楽校に参加したいです。

多摩川上流(平井川)で生き物観察

(もぞう紙・パソコン)

～イオン日の出店・チアーズクラブ～

あきる野市 西秋留小学校 5年 中村 翼くん
5年 中村 優生くん・5年 榆井 大地くん

みなさんこんにちは、最初に僕たちのイオンチアーズクラブについて、説明したいと思います。

「イオンチアーズクラブ」は地域のお友だちと環境に関する体験や学習をして考える力を育てるクラブです。

副店長をはじめお店の従業員がリーダーとなってお手伝いをしてくれます。



6年を1サイクルとして、ゴミ・リサイクル・資源・太陽と自然・植物・動物とテーマがあり、今年のテーマは「動物」で29人のメンバーで活動しています。

今年の活動は

- 5月 発足式でメンバー同士の顔合わせ、キッズ1日店長をしました。
- 6月 地場野菜の農家さんのところでモリオアオガエルやめだかの観察
- 7月 お店の近くの平井川で「川の生き物観察」
- 8月 多摩川で「生き物観察」とバーベキュー
- 9月 あきる野市横沢入りで「水辺の生き物観察」とハイキング
- 10月 檜原村の都民の森へバス旅行
- 1月～3月は、1年間のまとめで壁新聞作りをします。

最後に全国4ブロックにわたりて、イオンチアーズクラブサミット・発表会に参加します。去年の発表会では支社長賞をいただきました。

テーマによって活動内容は毎年変わります。

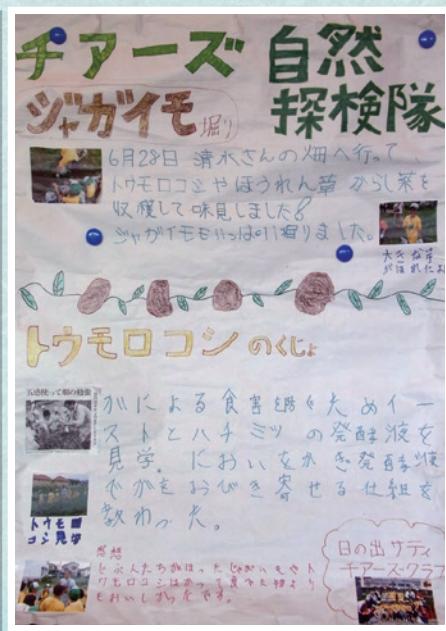
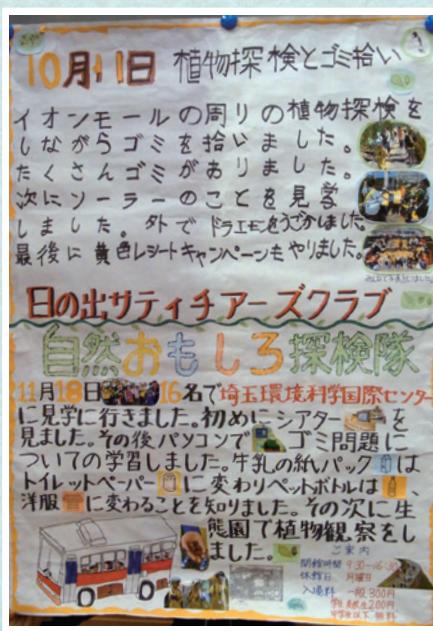
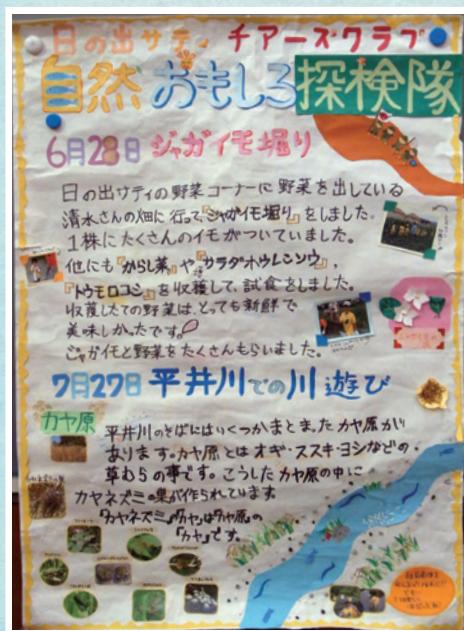
お店の周りの植物観察やゴミ拾いをしたり、募金活動もします。

年に1回は貸し切りバスで遠くに行くことが出来ます。

月に1回土曜日や日曜日に活動します。夏休みは平日に活動する時もあります。

入会金・会費はかかりず、月に1回の活動ですが地域のお友だちと楽しく活動しています。

みなさん興味のある方はぜひ参加してみませんか。



※「日の出サティ」は、2011年3月1日に「イオン日の出店」に変わりました。

「神社の下の平井川」

平井川に以前行った時は、草花公園の下の川でした。今回は、神社の下の平井川に行きました。



虫・魚はかせも一緒に行きました。最初に虫・魚はかせの話を聞いてから川に入りました。川の水が冷たくてなかなか入れませんでした。でも、思いきって入ってみました。

そうしたら一気に鳥肌が立ちましたが、ずっと入っていると慣れてきました。僕は、あみを借りて、前に草花公園の下の平井川に行った時に教えてもらった方法で川岸をあみでガサガサとやりました。そうしたら、いっぱい小さなエビが捕れていたのでびっくりしました。他の所もガサガサとやってみました。それでも小さなエビばかり捕っていたので、少し上流に行きました。上流には、川の真ん中に水草があり、そこをまたガサガサとやりました。「今度は、エビではなくて、他の生物が捕れるかなぁ」と思ったら、ちょっとだけ魚が捕れました。でも、ほとんどエビでした。今度は、あみをぐいぐい奥に押して「ガサガサ」をやりました。少し、あみが重く感



じました。そして、あみを出して見てみるとザリガニが入っていました。ザリガニは少しあばれていて、あみがゆれました。すぐに虫かごに水を入れて、ザリガニを入れました。入れた時に、下流から「お昼ごはんを食べましょう。集合」と聞こえました。僕は、お腹が空いていたので、すぐに行きました。お昼ごはんは、平井川の上の

神社で食べました。僕は、「ガサガサ」を力強くやったので、少し汗をかいていたのですが、神社は涼しくて快適でした。



その後も少し川で魚を捕って帰りました。帰りの車の中で、お母さんに「今度は、家族で来ようよ」と言いました。ザリガニが捕れたり、楽しかったです。



の神社で食べました。僕は、「ガサガサ」を力強くやったので、少し汗をかいていたのですが、神社は涼しくて快適でした。

その後も少し川で魚

を捕って帰りました。帰りの車の中で、お母さんに「今度は、家族で来ようよ」と言いました。ザリガニが捕れたり、楽しかったです。



僕たちは、8月23日清水農園の清水さんに平井川であんま釣りを教えてもらいました。あんま釣りは、細い竹の釣り竿に糸と針を付けて、川虫をエサにして、川の中に入って釣り竿ごと水の中に入れて釣る、釣り方です。

僕は、あんま釣りが初めてで、うまく釣れるか少し不安でしたが、ハヤを6匹釣ることができました。他の友だちは、オイカワなども釣っていました。釣った魚をみんなで焼いて食べました。



とてもおいしかったです。

平井川にはサンショウウオもいると教えてもらいました。

サンショウウオはきれいな川でしか生きていけないと聞いたので、僕はこの川がいつまでもきれいで、サンショウウオがすみやすい川でいてほしいです。

これで発表を終わります。

多摩川を世界へ発信！！

～生物多様性条約第10回締約国会議国際子ども環境会議あいち・なごや2010に出席して～

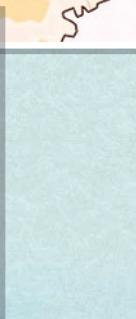
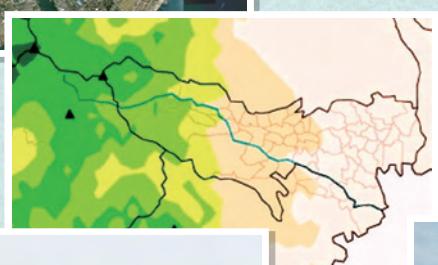
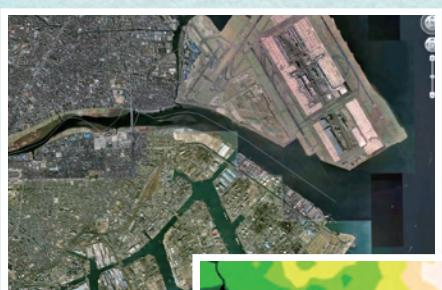
COP10 あいち・なごや
「国際子ども環境会議」に
出席しました。



2010年10月に実施された、生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) あいち・なごや「国際子ども環境会議」に日本代表として出席しました。会議では自然環境や「おさかなポスト」を通じ、考える外来種問題など、自然に対する思いや活動などを発表しました。海外の子どもたちと意見交換をするうちに、海外の子どもたちも自分の考えをしっかりと持っていることがわかりました。

「全国川の日ワークショップ」や、「多摩川子ども環境シンポジウム」などにも参加していますが、環境について

考え方意見交換をし、地域に発信することが大切だと思いました。



(パソコン) ~おさかなポストの会~

川崎市 生田中学校 1年 山崎 穂垂さん

私は小さい頃から、父や姉と多摩川へ花摘みや花火、石投げなど四季を通じ遊びに行ってています。夏はタモ網を用いた魚捕



りや、ライフジャケットを着た川流れ、自然観察などをしています。小学生の時には『多摩川にすむスジエビの実験』、『カルガモ観察記録』、『多摩川にすむ魚たち』のような身近な自然を観察し、夏休みの自由研究やシンポジウムのテーマとして発表しました。毎年観察を続け



ていると、多摩川が変わってきたことに気がつきました。父と一緒に、ライフジャケットを着て魚捕りをしていると、色のきれいなメダカや、ペットショップで見かけるような魚が網で捕れるようになりました。図鑑で調べてみると、グッピーやエンゼルフィッシュなどの熱帯魚でした。なぜ多摩川に熱帯魚が生息しているのか調べると、飼いきれなくなった熱帯魚や金魚などを多摩川へ逃がしてしまった人がいました。さらに詳しく調べると、多摩川は熱帯魚が生息できるほど温暖化していました。温暖化の原因は多摩川へ大量に流れ込む下水処理水が原因でした。お風呂やトイレ、台所などで使われたお湯や水は、下水処理場できれいになりますが、冷まされず温かいまま放水するため、多摩川が温暖化していました。



多摩川に熱帯魚が捨てられるのを防ぐため「おさかなポスト」が多摩川区稻田公園に設置されています。私はおさかなポストのジュニア会員として、「おさかなポスト」に入った魚の飼育、管理をお手伝いしています。



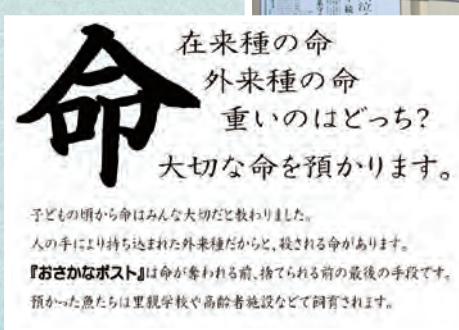
おさかなポストに入れられる魚たちは、餌代や電気料金がかかりすぎる、引っ越しで連れていけない、大きくなりすぎた、病気だから、

奇形だからなど、人間の都合で捨てられる魚たちばかりです。おじいさんが亡くなり、おばあさんだけでは魚の世話ができないなど、気の毒な理由もあります。



2010年は「おさかなポスト」に約7万匹もの外来種が入りました。その魚たちは「おさかなポストの会」で保護し、薬浴をさせ病気などが無いことを確認してから里親学校へ贈り、子どもたちに育ててもらっています。

私が通っている川崎市立生田中学校も「おさかなポスト里親学校」として熱帯魚を飼うことにより、命の大切さや生態系の保全などを生徒や先生も学んでいます。



多摩川の観察や調査、「おさかなポスト」を通して、これからも多摩川の生態系を守っていきたいと思います。

多摩川の歌

作詞／谷川 俊太郎 作曲／寺嶋 陸也

おおぞら たか
大空の高みふるさとにして
きり つゆ ち し
霧はまき露は地に滲み
だいち ふか
大地の深みをみなもとにして
う ひろ
せせらぎは生まれ拡がる
ほとばし なが や
流れていまぬ
たまがわ
多摩川はきらめくいのち



©2007,2011 ALUPIN・アイフィールド

みずべ さくら ゆめ たく
水辺の桜に夢を託して

つど ひと あそ こ
集う人遊ぶ子どもら

ひとびと こころ
人々の心ゆるくむすんで

みずあお もり みどり
水青く森は緑に

うずま たた ふか
渦巻いて湛えて深く

たまがわ
多摩川ははぐくむいのち



みなさん、発表おつかれさまでした！



作品賞発表・賞状授与



みんなでがんばった
素敵な発表ばかりでした。

第2部：交流会



発表の緊張もほぐれ、和やかに交流を深めました。

会場アンケート結果

質問 興味をもった発表は何ですか？（いくつでも）

	回答者数	全体比
①野川しらべ	12人	8.8%
②小菅川とともに	14人	10.3%
③僕の貴重な時間／多摩川レガッタ	8人	5.9%
④守ろう！自然環境	17人	12.5%
⑤私たちの水辺の楽校	13人	9.6%
⑥河辺川原の野鳥	18人	13.2%
⑦ヤマメを育てる	15人	11.0%
⑧今の多摩川はなぜタマゾン川なの？	12人	8.8%
⑨多摩川上流（平井川）で生き物観察	8人	5.9%
⑩多摩川を世界へ発信！！	19人	14.0%



©2007,2011 ALUPIN・アイフィールド

質問 次回に期待するテーマは何ですか？

- エコをエゴにしない取り組みを継続してほしい。
- 野鳥のこと。
- 環境問題。
- 子どもたちが川と親しみ、学んだことを発表し合えれば良い。
- 楽しく遊び、学ぶテーマが良い。
- 昔との対比等があっても面白いと思う。
- 魚のこと。
- 河川敷を含めた多摩川の生態。

質問 次回は自分も発表したいですか？

	回答者数	構成比
●発表したい	5人	9.8%
●発表はしたくないが 参加したい	21人	41.2%
●参加しない	0人	0%
●周囲の人に参加・ 発表をすすめたい	17人	33.3%
●不詳	8人	15.7%

質問 発表を聞いて何が学べて、どんな感想を持ちましたか？

- 自然環境に関心を持ち、学習する子どもたちが確実に育っていることに力強さを感じた。
- 子どもたちの発表が年々良くなっている。
- COP10で多摩川の環境について世界に警鐘を鳴らしたことは大変素晴らしい。
- よく観察出来ていた。それぞれ素晴らしい発表だった。
- 川の水は、生活排水の影響が大きい。外来魚の影響で、生態系が崩れないよう心がけることが大切。子どもたちは貴重な体験をしていると感じた。
- 自分も発表したが、他の発表者もよく調べていて、勉強になった。
- 子どもが未来のことを考えていて、素晴らしい。
- 今年も皆さんの発表内容に、感心と感動をもらった。
- 自然に対し、前向きに学んでいこうとしている子どもたちに感銘を受けた。
- 川の流域によって、守ってほしい自然があるなど感じた。川をきれいにし、川原で楽しく遊び、学べる場を残していくといいといけないと思った。おさかなポストのことは知らなかつたので、勉強になった。
- 浅川で、安易にパンなどをあげると、外来種を増やしてしまうことが分かった。
- COP10に参加したのは立派なことだ。地域の大人たちにも多摩川の情報を発信したい。
- 子どもたちの一生懸命さが伝わった。
- 自然を大切にしないといけない。まだまだ自然は沢山残っていると感じた。
- 小菅村は全校で30人と少ないので、全員で自然体験をし、絆があり、素晴らしい。今後も子どもたちの活躍を期待している。
- 多摩川についてよく調べていることに感心した。多摩川の生態など、勉強になった。
- 小中学生のしっかりとした発表に、今年も感心した。遊びや観察を通じて、自然を大切にする心を培い、はばたく子どもたちにたのもしさを感じた。
- 回を重ねるごとに、発表にまとまりが出てきている。
- 子どもたちが、多摩川・自然・環境のことをよく考え、発表していたのが良かった。それぞれの発表の構成も良かった。
- 多摩川に沢山の種類の魚がいることを初めて知った。もっと多摩川がきれいになって、子どもたちがさらに自然と触れ合える環境を作るためにも、自分に出来ることをしていきたい。
- 日常に密接した発表が多く、良かった。
- 知らなかったことが多く、大変興味深く聞かせてもらった。
- 子どもたちの生き生きとした活動の様子が伝わってきた。
- 昔から比べればきれいになったが、まだまだ外来魚などで生態系が脅かされている。もっともっと訴えて、きれいにして、子どもたちを大いに遊ばせたい。
- 小学生の活動が素晴らしい。
- 多摩川の美しい自然を大切にしたい。
- 多摩川の自然をよく知ることができた。
- 近隣の楽校の活動が分かって良かった。
- 自然の大切さを感じた。

美しい多摩づくり運動を推進する

美しい多摩川100年プラン

美しい多摩川フォーラムは、平成20年4月、経済・環境・教育文化を運動の柱に、多摩地域の将来を見据えた基本計画「美しい多摩川100年プラン」を公表。 “持続可能な地域社会”の実現に貢献します。

地域経済の活性化は、
美しい多摩の桜の観光まちづくりから

経 済

- 多摩川の観光ルートづくり
- 「多摩川夢の桜街道」と桜の札所巡り(4月)
- 「美しき桜心の物語」の語り活動
- 多摩川フォトコンテスト写真展(3月)

未来の桜守へ



すべてはここ(水干)から



夢のシンボルプラン

多摩川 夢の桜街道
<http://www.sakurakaido.jp>

明るい未来のまちづくりは、
「次代を担う子どもたち」への環境教育から

教育文化

- カヤック体験教室(7月)
- 炭焼き体験と水辺の交流会(8月)
- 多摩川子ども環境シンポジウム(12月)
- 桜守学校活動(桜守育成)
- 「多摩川の歌」普及活動

水辺に親しもう



地球環境問題への取り組みは、
身近な水辺の実態認識から

環 境

- 多摩川一斉水質調査(6月)
- 美しい多摩川クリーンキャンペーン(11月)
- 「美しい多摩川フォーラムの森」活動(森林の保全整備)
- 桜等の植樹・維持再生活動

私たちといっしょに活動やイベントに参加してみませんか

第4回

2011.12.17(土) 開催決定!!

多摩川子ども環境シンポジウム

フォレスト・イン 昭和館 [14:00~17:00](予定)

お問い合わせ
・連絡先 美しい多摩川フォーラム事務局

東京都青梅市勝沼3丁目65番地
(青梅信用金庫 地域貢献部内)
TEL:0428-24-5632

美しい多摩川

検索

<http://www.tama-river.jp>